

なし

発行年	1910
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/610">http://hdl.handle.net/10114/610</a>

A  
52  
9

寄  
の  
四  
書  
贈  
梅  
謙  
次  
郎  
氏

## 凡例

一 括弧中、數字ハ法令ノ簡條、號數ヲ示ス而シテ上ニ其所屬法令ヲ掲ケサルハ改正法案ノ簡條ナ

二 單ニ法令ノ種類ノミヲ示シテ其國名ヲ掲ケサルハ本邦ノ法令ナリ

三 單ニ國名ノミヲ掲ケテ其法令ノ種類ヲ示ササルハ民法ノ簡條ナリ

四 人ハ既成法典人事編、財ハ財產編、取ハ財產取得編、捕ハ債權擔保編、證ハ證據編ノ略ナリ

五 憲ハ憲法、商ハ商法、民訴ハ民事訴訟法、刑ハ刑法、刑訴ハ刑事訴訟法ノ略ナリ

六 法ハ法律、勅ハ勅令、閣ハ閣令、省ハ省令、府ハ府令、縣ハ縣令、警ハ警察令、調ハ調令、指ハ指令、告ハ布告、布ハ布達ノ略ナリ

七 佛ハ佛蘭西、獨ハ獨逸、普ハ普魯西、索ハ索連、巴ハ巴威爾、澳ハ澳大利、匈ハ匈牙利、英ハ英吉利、伊ハ伊太利、西ハ西班牙、葡ハ葡萄牙、白ハ白耳義、蘭ハ荷蘭、露ハ露西亞、希ハ希臘、瑞ハ瑞典、米ハ北美合衆國、紐ハ紐育、加ハ加里保爾尼亞、亞ハ亞爾然丁、印ハ印度ノ略ナリ

八 章ハ章案、一章ハ一讀會草案、二章ハ二讀會草案ノ略ナリ

# 民法

## 第一編 總則

(理由) 本編ハ既成法典人事編財産編財產取得編及ヒ證據編一部ヨリ成ル蓋レ一種ノ權利ニ特別ナルモノヲ除キ凡ソ各種ノ權利ニ共通ナル規則ハ皆之ヲ網羅シテ本編ヲ掲ケンテ欲レルナリ而シテ其順序モ亦力メテ論理ニ從ハンコトヲ期セリ乃チ第一章於テ權利ノ主格タル人ノ總則ヲ掲ケ第二章ニ於テ人ニ非ズシテ權利ノ主格タルヘキ法人ノ規則ヲ掲ケ第三章ニ於テ或權利ノ目的タル物ノ原則ヲ掲ケ第四章ニ於テ權利ノ得喪ニ關スル法律ノ總則ヲ定メ第五章ニ於テ諸權利ノ權利ニ通スル期間ノ計算法ヲ定メ第六章ニ於テ直接又ハ間接ニ權利ノ消滅ニ關スル時效ノ規則ヲ定メタリ

## 第一章 人

(理由) 本章ノ規定ハ主トシテ既成法典人事編中ニ取レリ乃チ第二節ヲ權利ノ享有ト爲シ何人カ權利ノ主格タルコトヲ得ルカヲ規定シ第二節ヲ能力ト爲シ其權利ノ主格タル人カ如何ナル條件ヲ以テ其權利ヲ行使スルコトヲ得ルカヲ示シ第三節ヲ住所ト爲シ人ノ生活ノ本據ヲ定メ第四節ヲ失踪ト爲シ人ノ踪跡分明ナラサル時ノ處置ヲ明カニセリ

既成法典中國民法限及ヒ身分證書ニ關スル規定ハ之ヲ削除セリ蓋シ此等ノ事ハ主トシテ民法ニ屬スルモノナラズ種々手續ニ關スルモノ多キヲ以テ之ヲ特別法ニ讓ルヲ至當トシタレハナリ



## 第二節 私權ノ享有

(理由) 既成法典人事編第一章ニハ私權ノ享有及ヒ行使ト曰ヘリ今其行使ヲ省キタルハ之ヲ別節ニ規定スルヲ以テ能レリトシタレハナリ

### 第一條

(理由) 既成法典人事編第一條ニハ權利ノ享有ト行使トヲ併セテ規定セリ而シテ其前二言ヘル凡ツ人ハ私權ヲ享有シテ文字ハ聊カ實言ニ屬スルヲ以テ今之ヲ省キ又同第二條ニハ關シテ(三)澳(二)索(三)西(二)九ツユエリヒ九ツラウブユンテン(五)二項等諸國ノ法典ニ規定セルカ如ク一般ニ胎兒ノ利益トナルヘキ場合ニ於テハ之ヲ既生兒ト同視スルト雖モ斯ク一般ニ之ヲ規定スルトハ往々意外ノ結果ヲ生ズル適用ノ苦シムル虞アリ因テ今條七五九〇六伊七二四七四一〇五三等等規定及ヒ獨自兩國ノ民法草案ニ倣ヒ相續遺贈損害賠償等ニ關シテ胎兒ノ權利ヲ認メ一般ニハ既生兒ニ非サレハ權利ヲ享有スルコトヲ得サルトシタリ(獨)五七三二一七五八一九六四二項白章七四三二七五五

### 第二條

(理由) 本條ハ既成法典ノ字句ヲ修正シタルニ過キス但法律ヲ改メテ法令ト爲シタルハ憲法上命令ヲ以テ外國人ノ權利ヲ規定スルコトヲ得レハナリ

## 第二節 能力

### 第三條

(理由) 既成法典ニハ能力ニ關スルニ一般ノ規程ナク唯人事編及ヒ財產編ノ各處ニ其法規ニ載セルアルノミ而モ未成年者ノ能力ニ至リテハ銷除ニ關スル法文ニ依リテ僅ニ之ヲ推知スルコトヲ得ルニ過キス今各種ノ無能力者ヲ本條中ニ列數シ其能力ノ程度ヲ明カニセリ  
本案ニ自治齊未成年者ヲ除キタルハ本邦ニ於テ未タ其必要ヲ見サルヲ以テナリ又刑事禁治者ヲ除キタルハ改正刑法ニ於テ之ヲ認メサルコトヲ豫期シテナリ

(理由) 本條ハ既成法典ノ字句ヲ修正シタルニ過キス但私權ノ行使ニ關スル數文字ヲ削除シタルハ第一民法ニ於テハ總テ私權ニ關スル規程ノミヲ掲ケタルト第二他ノ法令ニ於テモ單ニ成年ト曰ヒタルトキハ解釋上民法ノ成年ヲ指シタルモノト認メサルヘカサルニ因ル  
既成法典人事編第一條ニハ法律ニ定ムルハ無能力者ノ非ハ限ハル自ノ其私權ヲ行使スルコトヲ得ト曰ヘルモ是レ言フヲ待メサル所ナルヲ以テ今之ヲ省キタリ

### 第四條

(理由) 既成法典財產編第五百四十七條第二項及ヒ第五百四十八條第一項ニ據レハ暗ニ未成年者ハ一切ノ法律行為ヲ獨斷ニテ爲シ得サルヲ原則トシ唯同第三百十九條第一項ニ據レハ未成年者ミ共獨斷ニテ爲シタル行為ヲ銷除スルコトヲ得ルモノトセルカ故ニ實際未成年者ノ利益ノミヲ受ケヘキ行為ハ之ヲ銷除スルコト殆ト之アラサルヘシ殊ニ其法定代理人カ獨斷ニテ爲シ得ル行為ヲ未成年者カ

獨斷ニテ爲シタルトキハ缺損ニ基クニ非サレハ之ヲ銷除スルコトヲ得ズセカ故ニ(附五四八)一項此場合ニ於テハ未成年者ニ利益アル行爲ヲ銷除スルコトヲ得サルハ勿論ナリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ既成法典ノ規定モ實際本文ト略同ノ結果ヲ生スヘシト雖モ第一其原則ヲ明カニスルノ必要アルノミナラス其細目ニ至リテ大ニ同シカサルモアリ蓋シ既成法典ニ於テハ通常缺損ニ基クニ非サレハ銷除ヲ許ササルモ缺損ノ有無ヲ規定スルハ極メテ難ク或ハ法官ノ判斷其當ヲ失ヒ動モスレハ相手方ヲ損害シ又ハ未成年者ノ保護ヲレテ全カラサラムルノ虞アリ故ニ今之ヲ廢スリ又既成法典ニ據レハ贈與ト雖モ親族會ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ受諾スルコトヲ得サルモノトセリ(八一九四)號附五四七二項ニ然リト雖モ此等ノ財產上ノ能力ニ付テハ法律ハ財產上ノ利害ノミヲ較量シ若シ未成年者ニ利益アル行爲ナラシニハ毫モ之ヲ取消ヲ許スノ理アラサルナリ故ニ負擔ナキ贈與ハ未成年者獨斷ニテ之ヲ受諾シタルモ敢テ之ヲ取消スコトヲ得サルモノトセリ

## 第五條

(理由) 本條ノ規定ハ既成法典中ニ存セス又外國ニ於テモ法文ニ此規定ヲ掲グルモノ甚メ多カラス而モ其必要缺テヘカサルコトハ敢テ疑ハ容レテ蓋シ未成年者ト雖モ修養其他ノ需要ノ爲メ多少ノ契約ヲ締結シ多少ノ財產ヲ處分スルノ必要アルハ論サレタス然レモ若シ此等ノ需ヲ行爲ノ付テ猶ホ一法定代理人ノ同意ヲ得タルニ非サレハ後日取消サルコトヲ得リトセハ誰レモ不安セリ未成年者ト此等ノ取引ヲ爲ス者アラシヤ故ニ法定代理人ノ目的ヲ定メ又之ヲ定メシテ處分ヲ許ササル財產

ニ限リ有效ニ之ヲ處分スルコトヲ得ルモノトシテ以テ未成年者ヲ保護シ併セテ取引ノ便利ヲ謀レリ(英國) 於テモ千八百七十四年 *Infants Act* 第二條ニ據レハ未成年者ノ必要品ヲ購ヒタルハ全ク有效ナリトセリ是レ蓋シ本條ト同一ノ精神ニ出デタルモノナリト雖モ或ハ狹キニ失シ或ハ廣キニ過クルヲ以テ寧ロ獨法ニ往行ハルル本條ノ主義ヲ採用セリ

## 第六條

(理由) 一 既成法典ニハ商業及ヒ工業ニ付キ本條ノ規定ヲ設クルト雖モ是レ聊カ扶植ニ失スルノ憾アルヲ以テ本案ニ於テハ汎ク營業トセリ

二 既成法典ニ據レハ不動産ノ讓渡ニ關シテハ商業ヲ許サレタル未成年者ト雖モ普通ノ未成年者ト其能力ヲ同レウスルモノトセリ是レ近來學者ノ大ニ非難スル所ナリ蓋シ商業ヲ營ムノ許可ヲ得タル未成年者ハ其商業ノ爲メニ不動産ヲ抵當トシ又ハ買入スルコトヲ得ヘシ是レ恰モ直接ニ讓渡スコトハ之ヲ許サスト雖モ間接ニ之ヲ爲スハ可ナリト曰ウト一般頗ル條理ニ合ハサルモノト謂フヘシ是レ本案ニ於テ未成年者ハ其許サレタル營業ニ關シテハ全ク成年者ト同一ノ能力ヲ有スルモノトシタル所以ナリ

三 本條第二項ノ規定ハ既成法典ニハ之ナキモ其必要ナルコトハ敢テ喋々ヲ須タサルカ如シ蓋シ父母後見人等ハ未成年者カ既ニ某職業ヲ營ムニ必要ナル智能ヲ有スルモノト信シ之ヲ許シタルモ其未成年者蓋シ其資本ヲ過當ニ費シ又ハ常ニ商機ヲ失ヒ動モスレハ損失ヲ被スルカ如キコトアラハ



## 第七條

速ニ之ヲ防遏スルコトヲ得シハアルヘカラス是レ本條第二項ノ必要アル所以ナリ

(理由) 一、既成法典ニハ、時、心、復、失、ル、有、ル、モ、本、案、ニ、於、テ、ハ、之、ヲ、削、除、セ、リ、是、レ、他、ナ、シ、既、ニ、心、神、喪、失、ノ、常、況、ニ、在、ル、ト、云、ヘ、ル、以、上、ハ、心、神、喪、失、カ、唯、常、常、ノ、狀、況、ナ、ル、ト、キ、ハ、以、テ、足、レ、リ、ト、ス、ヘ、キ、コ、ト、明、カ、ナ、レ、ハ、ナ、リ、蓋、シ、喪、心、者、ニ、シ、テ、一、切、本、心、ニ、復、ス、ル、コ、ト、ナ、シ、ト、モ、其、行、爲、ハ、禁、治、産、ヲ、キ、モ、皆、當、然、無、効、タ、ル、ヘ、キ、カ、故、ニ、特、ニ、其、治、産、ヲ、禁、ス、ル、ノ、要、ナ、リ、唯、時、本、心、ニ、復、ス、ル、コ、ト、有、ル、場、合、ニ、於、テ、ノ、ミ、特、ニ、其、治、産、ヲ、禁、シ、以、テ、一、ノ、行、爲、カ、其、喪、心、中、ニ、爲、シ、タ、ル、モ、ノ、ル、ヤ、將、タ、本、心、ニ、復、レ、タ、ル、間、ニ、爲、シ、タ、ル、モ、ノ、ル、ヤ、ニ、付、キ、生、ス、ヘ、キ、爭、議、ヲ、未、然、ニ、防、ク、ノ、要、アル、ナ、リ、而、シ、テ、其、本、心、ニ、復、ス、ル、コ、ト、有、ル、ト、否、ト、ヲ、問、ハ、ス、治、産、ヲ、禁、ス、ル、所、以、ノ、者、ハ、他、ナ、レ、其、本、心、ニ、復、ス、ル、コ、ト、有、ル、ヘ、キ、否、ヤ、ヲ、豫、知、ス、ル、コ、ト、難、キ、ト、後、見、人、ヲ、選、ビ、又、第、三、者、ニ、告、知、ス、ル、爲、ニ、裁、判、上、ニ、其、病、ヲ、公、認、ス、ル、ノ、必、要、アリ、而、シ、テ、之、ニ、禁、治、産、ノ、制、ヲ、利、用、ス、ル、ノ、簡、且、便、ナ、ル、ニ、如、カ、サ、ル、ト、ヲ、以、テ、ナ、リ、

二、禁、治、産、ヲ、請、求、ス、ル、コ、ト、ヲ、得、ル、者、ナ、リ、中、ニ、本、人、後、見、人、保、佐、人、ヲ、加、ヘ、タ、ル、ハ、時、本、心、ニ、復、ス、ル、喪、心、者、ハ、自、ラ、禁、治、産、ノ、必、要、ナ、ル、コ、ト、ヲ、悟、リ、之、ヲ、請、求、セ、ト、欲、ス、ル、コ、ト、アル、ト、未、成、年、者、ノ、禁、治、産、ヲ、宣、告、ス、ヘ、キ、場、合、ニ、於、テ、ハ、後、見、人、準、禁、治、産、者、ニ、付、テ、ハ、保、佐、人、カ、尤、モ、其、必、要、ヲ、覺、知、ス、ヘ、キ、地、位、ニ、在、ル、ト、ニ、因、三、既、成、法、典、典、人、事、編、第、百、二、十、三、條、第、一、項、ノ、區、裁、判、所、ハ、ノ、文、字、ヲ、削、リ、タ、ル、ハ、是、レ、專、ヲ、裁、判、所、ノ、管、轄

ニ、關、ス、ル、モ、ノ、ニ、シ、テ、手、續、法、ニ、屬、ス、ル、ヲ、以、テ、ナ、リ、(二、十、三、年、十、月、八、日、法、一、〇、四、號、二、〇、ニ、之、ヲ、定、メ、タ、リ、)

四、同條第二項モ亦手續法ニ屬スルヲ以テ之ヲ削レリ

## 第八條

(理由) 本條、全ク既成法典典人事編第二百二十四條第一項ニ同シ而シテ其第二項以下ヲ削リタル理由ハ後見ニ關スル規定ハ總テ親族編ニ掲グルコトトシタルヲ以テナリ

## 第九條

(理由) 一、既成法典典人事編第二百三十一條ニハ、親、喪、ノ、喪、ノ、日、ハ、無、能、力、者、ハ、ス、ト、云、ヘ、リ、然、レ、ト、モ、是、レ、裁、判、効、力、ニ、關、ス、ル、モ、ノ、ナ、ル、ヲ、以、テ、之、ヲ、手、續、法、ノ、規、定、ニ、讓、リ、茲、ニ、明、言、セ、ス、

二、無、能、力、者、ト、ハ、ト、曰、フ、モ、其、無、能、力、ノ、程、度、判、然、セ、ス、從、テ、次、項、ノ、規、定、ヲ、要、ス、タ、ニ、至、レ、リ、故、ニ、寧、ロ、本、文、ノ、如、ク、改、メ、ル、ヲ、以、テ、妥、當、ト、ス、

三、同條第三項ヲ削除シタル理由ハ未タ禁治産ノ宣告アラザル間ハ普通ノ原則ニ從ヒ意思ノ有無ニ依リテ行爲ノ有效無効ヲ分ツヲ以テ穩當トス蓋シ同レク精神ノ錯亂セル者ノ行爲ニシテ一ハ後日禁治産ヲ受ケ一ハ終ニ禁治産ヲ受ケサリシニ因リ差等ヲ設ケルノ理アラサレハナリ殊ニ原文ニ據レハ行爲ノ當時ニ於テ喪心ノ明確ナルトキハ銷除ノ權ヲ行フコトヲ得ルモノトセルカ故ニ後日禁治産ヲ受ケルニ至リタル重症ノ癡癡者ノ行爲ハ單ニ之ヲ銷除スルコトヲ得ルニ止マリ終ニ禁治産ヲ受ケ

ルノ必要ナカリシ輕症ノ癩癰者ノ行爲ハ却テ全ク無效トナルノ奇觀ヲ呈セシ是レ此原文ヲ削除スルノ急レルニ如カスト信シタル所以ナリ

四禁治産ヲ受ケサル癩癰者ニ關スル規定ヲ全廢シタル理由ニテ來儼白癩等ノ諸國ニ於テ禁治産者ノ外別ニ癩癰病院ニ在ル者ノ能力ヲ定ムルノ必要ヲ認メタルハ全ク禁治産ノ制其宜シキヲ得サルニ職由セシハアラス然ルニ今新ニ法典ヲ編纂スルニ當リ故ニ禁治産ノ制ヲ不完全ニシテ禁治産外ニ別個ノ制度ヲ設ケテ之ヲ稱フノ必要ヲ生セシムルノ不可ナルハ固ヨリ言フヲ得マス若シ禁治産ノ制ニシテ其宜シキヲ得ハ禁治産外ニ之ト並行スヘキ別個ノ制度ヲ設ケルハ聊カ蛇足ニ類スルモノアルヲ恐レ癩癰者ハ事實ニ於テ自ラ其財産ヲ治ムルコト能ハサルカ爲メニ特ニ管理人ヲ置キ之ヲ職分ヲ定メ又不法ノ監禁ヲ防遏シ狂人カ公安ヲ害スルノ危險ヲ豫防センカ爲メニ適當ノ處置ヲ施スカ如キハ事或ハ行政ニ關スルモノアルヲ以テ總テ之ヲ特別法令ニ職ルコト諸外國ノ例ノ如クスルヲ可トシタルナリ

## 第十條

(理由) 一、既成法典人事編第二百三十一條ハ禁治産ノ解止ヲ請求スルコト得ル者ヲ列舉セリ然ルニ前ノ禁治産ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得ルモノト小異アリ是レ聊カ其當ヲ得サルカ如シ蓋シ或事ヲ創始スルノ權利アルモノハ又之ヲ廢止スルコトヲ得ルヲ常トスルハ普通ノ原則ナリ而シテ改正案ニ據レハ尤モ禁治産ヲ請求スルコトヲ得ル者ノ範圍ヲ擴メタルカ故ニ既ニ此等ノ者ハ禁治産ノ解止

ヲ請求スルコトヲ得セシメハ以テシトスヘク又此等ノ者ハ尤モ禁治産ノ宣告ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルト同時ニ其解止ニ付テモ亦大ニ利害ノ關係ヲ有スルカ故ニ此等ノ者ニハ必ズ之ヲ請求スルコトヲ得セシメスルハアルヘカラス

二、原文ノ第二項ハ當然言フヲ待タサルヲ以テ之ヲ除キタリ

## 第十一條

(理由) 一、本條ハ殆ト既成法典人事編第二百三十一條第一項ニ其句ノ修正ヲ施シタルニ過キス唯原文ニ曉曉者トアリシヲ曉者ト改メ必ズモ曉ニシテ曉アルモノニ限ラス苟モ曉者ト曉者ハ皆准禁治産者トスルコトヲ得ルモノトシタリ蓋シ既成法典ハ伊澳西諸國ノ法律及ビ白國民法草案ニ於ケルカ如ク生來ノ曉者ニ限リ准禁治産者トスルヲ精神大ナルヘント雖モ其十分ノ理由ヲ察見シ難キノミナラス若シ曉者ニシテ然ラハ盲者モ亦生來ノ盲者ニ限ラサルヘカラス是レ普索諸國ノ法律(索連法ニハ曉者ト曉者ト曉者ト聊カ其規定ヲ同シウセスト雖モ其之ヲ後見ニ付スルハ則チナリ)及ビ獨逸民法草案ニ倣ヒ必ズモ曉者タルコトヲ要セサルモノトシタリ

## 第十二條

(理由) 一、既成法典ニハ保佐人ノ同意ヲ要スル行爲ニ付テハ先ツ自治達至成年者ニ關スル法條ニ讓リ其自治達至成年者ニ關スル法條ニ於テハ又後見ノ關係ニ讓レリ雖モ後見ノ關係ニ於テハ頗ル改正ヲ要スルモノアルヲ信スルカ故ニ之ヲ茲ニ明記スルヲ必要トセリ



二、既成法典人事編第九十四條ニハ贈與ヲ爲スコトヲ言ハス財産取得編第三百五十一條ニハ贈與、讓渡、爲メ法律ノ要ムル方式ニ從フヘキコトヲ言ヘルヲ以テ不動產又ハ重要ナル動產ノ贈與ヲ爲スニハ準禁治產者ハ保佐人ノ同意ヲ經テ之ヲ爲スヘキモノトセルカ如ク然リト雖モ贈與ノ損失ノモアリテ毫モ利益ナキモノナルカ故ニ一切ノ場合ニ於テ保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトスルヲ可トシタリ

三、負擔ナキ贈與遺贈等ヲ受クルハ未成年者猶且之ヲ爲スコトヲ得ルモノトセシカ故ニ準禁治產者カ獨斷ニテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ言フヲ得サルナリ

四、既成法典ニハ一切保證ノ事ヲ言ハス蓋シ是レ亦保佐人ノ同意ヲ要スルモノトスル意ヲ然レトモ之ヲ明言セザレハ疑ヲ招ク虞アルヲ以テ本案ニハ之ヲ明言セリ

五、原文ノ如ク保佐人ノ立會ト云フキハ保佐人必ス其席ニ在ルコトヲ要スルカ如ク見エテ不可ナルヲ以テ之ヲ同意ト改メタリ

六、既成法典財産編ニハ特別ノ方式ヲ要スル行爲ニ付テハ若シ其方式ヲ踐サルコトハ當然其行爲ヲ取消スコトヲ得ルモ(附五四七二項)單ニ保佐人ノ同意ノミヲ要スル場合ニ於テ其同意ナクテ其行爲ヲ爲レタルトキハ餘損ニ因リテノミ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトセリ(附五四八二項)

然レトモ準禁治產者ノ行爲ニ特別ノ方式ヲ必要トスルモノハ法典中之ヲ發見セシ且餘損ノ有無ヲ別ツハ困難ニレテ弊害ヲ生レ易キコトハ既ニ論シタルカ如シ(四)是レ本條ニ列舉セル行爲ニ付キ

七、既成法典人事編第二百三十三條ノ如ク第二項ニ於テ「管理」行爲ト曰フキハ第一項ニハ一切管理行爲ヲ包含セシ又處分行爲ハ皆之ヲ包含スルモノノ如ク見ユルモ是レ事實ニ反スルヲ以テ本文ノ如ク改メタリ

八、準禁治產者ノ爲シタル行爲ハ原則トシテハ有效ナルカ故ニ保佐人ノ立會アルニ非ザレハ管理行爲ヲ爲スコトヲ得スト曰ワハ聊カ穩ナサルヲ以テ保佐人ノ同意アルコトヲ要スト改メタリ

九、當然其行爲ヲ取消スコトヲ得ル旨ヲ規定セルヲ以テ人事編ノ規定ハ本案ト毫モ異ナル所ナキナリ

### 第十三條

(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百三十二條第二項及第二百三十五條ニ該當ス然レトモ準禁治產ノ請求及ヒ取消ニ付テ禁止產ト其規定ヲ異ニスル理由ナキヲ以テ總テ禁止產ニ關スル規定ニ適用スルコトトセリ

### 第十四條

(理由) 一、既成法典人事編第六十八條ニハ許可ヲ得ルニ非ザレハ某某ノ事ヲ爲スコトヲ得スト云ヘルモ全ク得サルニ非ス後日之ヲ取消スコトヲ得ルミ故ニ取消ヲ請フマデハ其行爲有效ナリト謂ハ



サルコトヲ得ス此レ單ニ行爲ヲ爲スハ夫ノ許可ヲ要ス。之ヲ改メタル所以ナリ

二 同條ニ據レハ元本ヲ領收スルニハ夫ノ許可ヲ要スルモ之ヲ利用スルニハ其許可ヲ要セサルモノトセリ然リト雖モ其利用ノ方法如何ニ依リテハ或ハ妻カ夫ニ對スル義務ヲ盡ササルモノト視ルヘキコトナキヲ保セス是レ元本ヲ利用モ其領收ト同シ夫ノ許可ヲ要スルモノトシタル所以ナリ

三 遺産ノ重要ナルモノハ敢テ不動產ト其輕重ヲ異ニセシ雖受モ亦讓渡ト同様ニ重要ナルモノト視ルヘキコトハ既ニ推禁治產者ニ付テ執レル所ノ主義ナリ(二三四號)

四 訴訟ニ答辯スルハ其危險之ヲ提起スルト毫モ異ナル所ナク其他訴訟行爲ハ總テ危險多キモノナルヲ以テ推禁治產者ニ付テ規定セシ如ク妻モ訴訟行爲ヲ爲スニハ當テ夫ノ許可ヲ要スルモノトセリ(二二四號)

五 原文ニ於テハ贈與ヲ受諾スルニハ夫ノ許可ヲ要スルモ之ヲ拒絕スルニハ其許可ヲ要セサルモノトセリ是レ一理ナキニ非ス何トナレハ贈與ハ素ト一ノ契約ニシテ贈受贈者ニ於テ之ヲ承諾スルマデハ未タ成立セサルモノト視ルコトヲ得サレハナリ然リト雖モ之ヲ拒絕スルノ概シテ不利益ナルコトハ敢テ疑フ容レズ是レ之ヲ拒絕スルニモ夫ノ許可ヲ要スルモノト改メタル所以ナリ

六 遺贈ノ受諾拒絕相續ノ承認拋棄ハ原文ニハ之ヲ妻カ夫ノ許可ヲ受テキ事項中ニ掲ケスト雖モ遺贈ヲ受テハ其遺贈者ニ因リテハ或ヘ之ヲ屑トセサルコトアリ又他人ノ家督又ハ遺産ヲ相續スルハ事頗ル重大ニ屬シ且財産上ニ於テモ相續人ノ爲メニ不利益ナルコトナシトセズ又遺贈ヲ拒絕シ相

續ヲ拋棄スルノ通常不利益ナルコトハ敢テ喋々ヲ待タズ是レ新ニ遺贈ノ受諾拒絕相續ノ承認拋棄ヲ加ヘタル所以ナリ

七 之ヲ要スルニ本條ニ列舉セル行爲ハ殆ト第十條ニ列舉セルモノニ同シ而シテ其全ク同シカラサル所以ノモノハ他ナレ推禁治產者ハ其精神完全ナラサルヲ以テ事之ニ不利益ナル行爲ヲ爲ササラシメントコトヲ謀ラスンハアルヘカラス之ニ反シテ妻ハ其精神ニ不完全ナルヲ故ニ無能力ナルニ非ス是ヲ以テ未婚ノ女子及ビ寡婦ハ其能力ニ於テ男子ノ異ナルナキヲ原則トス唯有夫ノ婦ハ夫ニ順從スルノ義務アルカ故ニ行爲ノ性質ニ依リ夫ノ許可ヲ受ケルコトヲ要スルモノトシタルナリ是レ妻ト推禁治產者ト別カ異ナラサルコトヲ得サル所以ナリ

## 第十五條

(理由) 既成民法ニハ此規定ナク商法ニノミ之アリト雖モ事能力ニ關スルヲ以テ未成年者ノ例ニ倣ヒ此ニ之ヲ掲ケルヲ妥當トス況ヤ是レ必スレモ商業ノニ關ヒニ切ノ職業ニ付テ皆同一ナルヘキニ故テナリ

商法第十三條ニハ凡ソ商ヲ爲ス妻ノ能力ヲ掲ゲタリト雖モ一ノ商取引ヲ爲スニ付テハ別ニ特例ヲ設ケルノ間ハレナク唯商業其他一ノ職業ヲ營ムル妻ノ能力ハ特ニ之ニ規定スルノ理由アリ蓋レ一ノ職業ニ商業ヲ營ムルノ許可ヲ得ル妻ハ事苟モ其職業ニ關スル以上ハ每事夫ノ許可ヲ受ケテ始メテ之ヲ行フコトヲ得トセハ到底其職業ヲ營ムコト能ハサルヘシ故ニ一旦其職業ヲ許シタル以上ハ其當

然ノ結果トシテ其職業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スノ許可ヲ與ヘタルモノト視サルコトヲ得サルナリ  
是レ佛獨伊白蘭澳西瑞希(商五一項七)等ノ諸國ニ於テ皆商業又ハ其他ノ職業ヲ營ムル妻ニ付  
テノミ規定スル所以ナリ

## 第十六條

(理由)一、既成法典人事編第六十九條ニハ夫ノ許可ハ特定又ハ總括ナルコトヲ得ト云ヘルモ是レ反  
對ノ明文ナキ以上ハ言ヲ待マサル所ナリ佛蘭民法 如キハ特ニ管理行爲ニ付アリミ總括ノ許可可  
ヲ與フルコトヲ得ルト云ヘルニ因リ處分行爲ニ付テハ之ヲ與フルコトヲ得サルナリ故ニ佛蘭 如  
キ明文ヲ揭ケサレハ夫ノ許可カ特定又ハ總括ナルコトヲ得ルハ自ラ明ナリ

二同條ニハ總括ハ許可ハ證書ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ要スト云ヘルモ夫婦間ニ證書ヲ授受スルカ  
如キハ我國慣習ニ之ナキ所ニテ苟モ其許可アリタル證據明カナル以上ハ必スシテ證書ヲ要スル理  
由アラサルナリ

## 第十七條

(理由)一、既成法典人事編第七十條ニハ夫ノ失蹤ノ推定ヲ受ケタルキトアリタル夫ノ生死分明ナ  
ラサルトキト改メタルハ失蹤ノ推定ナル語ヲ廢センカ爲メナリ尙モ第四節ニ至リテ之ヲ詳述スヘ  
シ

二、商法第十二條ニハ妻カ夫ニ遺棄セラレハ又ハ夫ヨリ必要ノ給養ヲ受ケサルハ夫ノ承諾ヲ要セ

サルモノトセリ是レ至當ノ規定ニシテ實ニ商業ニ關シテノミ之ヲ設ケヘキニ非ス如何ナル行爲ニモ  
之ヲ適用スヘキカ如シ唯ハ夫ヨリ必要ノ給養ヲ受ケサルハ若シ夫ニ惡意ヲ示シテ夫ニ遺棄セ  
ハレタルナリ若シ夫ニ給養ヲ爲スノ實力ナカランカ是レ夫ニ罪ナキカ故ニ猶モ妻ヲシテ之ニ順從セ  
シメシハアルヘカラス因テ本文ノ如ク改メタリ

三、前二條總括ノ爲メ病院又ハ私宅ニ監置セラルル者ヲ以テ無能力者トセサルコトヲ言ヒ(九理由四)  
而シテ夫カ總括ノ爲メ病院又ハ私宅ニ監置セラルルハ妻ハ其許可ヲ受クルコトヲ要セストセル  
ハ頗ル前後矛盾セルニ似タリト雖モ妻カ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セサルハ必スシテ夫ハ無能力ナ  
ル場合ニ限ラズ唯實際其許可ヲ受クルコト能ハサル場合ニ於テ之ヲ要セサルコトトシタルナ  
リ

四、本條第五號及ヒ第六號ヲ加ヘタルハ實際ノ必要ヲ慮リナリ

## 第十八條

(理由)一、既成法典ニハ本條ノ規定ナシ故ニ未成年ノ夫ハ自己ノ爲メニハ未ダ獨斷ニテ重大ナル行爲ヲ  
爲スル能力ヲ有セサルニ拘ハラス其妻ニハ之ヲ許可スルコトヲ得ヘシ是レ頗ル其旨ヲ得サモノア  
リ蓋シ未成年者ハ未ダ重大ノ行爲ニ付キ十分ニ其利害得失ヲ辨識スルノ智能ヲ備ヘサル者ト認メテ  
之ヲ無能力者トセルナリ然ルニ自己ノ利害得失ハ之ヲ辨識スルノ智能ヲ備ヘサルモ他人ノ利害得失  
ハ之ヲ辨識スルノ智能アリト曰フハ前後矛盾ト謂ハサルヲ得ス是レ白國法律ニ倣ヒ本條ノ規定ヲ設



ケタル所以ナリ(白國法律ハ商業ニ關シテノミヲ規定スルト雖モ商業ト他ノ行爲トヲ區別スル理由ナキカ如シ)

## 第十九條

(理由) 本條ハ既成法典ハ全ク之ヲ缺ケリ然レトモ其必要ナルコトハ多辯ヲ待スルテ明カナリ蓋シ既成法典ノ如クシテ相手方ハ無能力者カ能力者トナリタル後五年ヲ經過スルマデ何時其行爲ヲ取消ヲ請求セラルルヤ計ルヘカラス其間其權利ヲ確定ニシテ其者ノ不利益ヲ論公全上亦斯ク權利ヲ不確定ノ狀態ニ委スルハ策ノ得タルモノニ非ス故ニ短期間ニ其行爲ヲ取消スヤ否ヤヲ確答セシメ以テ速ニ其權利ヲ確定スルコトヲ得セシメント欲シタルナリ

## 第二十條

(理由) 本條ハ既成法典財産編第五百四十九條ニ字句ヲ修正ヲ加ヘタルノミ

### 第三節 住所

(理由) 既成法典ハ本籍ヲ以テ住所トスルノ主義ヲ執リト雖モ所謂本籍ナルモノハ往々有者無實ニシテ法律上ノ生活ヲ爲スノ地ト同シカラサルコト多シ是レ既成法典人事編第二百六十六條ニ例外ヲ設ケ本籍地カ生計ノ主要ナル地ト異ナルトハ主要地ヲ以テ住所ト爲ス規定セル所以ナランカ若シ然ツハ寧ロ例外ヲ以テ原則トシ生活ノ本據ヲ以テ住所ト定ムルノ主義ヲ執ルヲ以テ急レリトス是レ本節改正ノ眼目ナリ

## 第二十一條

(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百六十二條及第二百六十六條ヲ既ニ述タル理由ニ依リテ改メタルナリ而シテ原文ニ民法上ノ住所トアリシヲ單ニ住所ト改メタルハ凡テ改正法典ニ於テハ力メテ民法中ニ公法ニ屬スル事項ヲ規定セザルノ主義ヲ執ルカ故ニ特ニ民法上云々ト曰ハサルモ其公法上ノモノヲ規定スルニアワサルコトハ明カナリ且此ニ住所ト曰ヘルモノハ純然タル民法ノミナラス商法民事訴訟法等ニモ適用スヘキモノナルカ故ニ單ニ住所ト曰フヲ以テ優レリト信シタルハナリ

既成法典ニハ住所ヲ定メ又ハ移スニハ必ス之ヲ届出アルコトヲ要スルモノトセリ是レ蓋シ從來ノ本籍ヲ取り直チニ住所トスルトモ或ハ必要ナラント雖モ苟モ生活ノ本據ヲ以テ住所トスル以上ハ敢テ届出ノ有無ヲ問ハス事ヲ事實上生活ノ本據ト爲レル地ヲ以テ住所トセザルヘカラス是レ人事編第二百六十三條第一項第二百六十四條第一項及第二百六十五條ニ削除シタル所以ナリ

既成法典人事編第二百六十二條第二項及第二百六十四條第一項ヲ削除シタル所以ハ未成者ノ住所ニ付テハ親族編中親權及後見部ニ於テ之ヲ規定スヘキモノト信シタルヲ以テナリ

## 第二十二條

(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百六十七條第二號一同レ而シテ其第二號ヲ分チテ次條ヲ設ケタル所以ハ日本ハ住所ヲ定ムル外國人ニ關シテハ必ス之モ其居所ヲ以テ住所ト代用スルコトヲ得ザル

## 第二十三條

ハ次ニ論スルヲ如クナレハナリ

(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百六十七條第二號ノ左ノ增補改正ヲ加ヘタルモノナリ

一、法例第八條ニ據レハ本國法ヲ適用ス可キ諸般ノ場合ニ於テ何ノ國民分限ヲモ有セサル者又ハ地方ニ依リ法律ヲ異ニスル國ノ人民ハ其住居所ノ法律ニ從フヘキモノトセリ而シテ此住所ト云フハ日本又ハ外國ニ於テ其者ノ有スル住所ナルコト疑フ容ルヘカラス然ラズレバ此場合ニモ亦既成法典人事編第二百六十七條ヲ適用スヘキモノトセハ常ニ日本ノ法律ニ依リヘキモノナルカ故ニ徒ラニ違テ住所ノ法律ニ從フヲ語ヲ用ユルノ理ナシ是レ本條但書ノ必要トシタル所以ナリ

二、原文ニハ單ニ左ノ場合ニ於テハ住所ヲ以テ住所ニ代用ス日本ノ住所ヲ定ムサル外國人ニ關スハトキト曰ヘルヲ以テ其居所外國ニ在ルモ猶本居所ヲ以テ住所ニ代用スヘキモノノ如是レ日本ニ於ケルノ敬文字ヲ加ヘタル所以ナリ

## 第二十四條

(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百六十八條ニ些少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ而シテ原文ノ但書ヲ除キタル理由ハ苟モ當事者ノ意思ニシテ明瞭ナル以上ハ必ズシモ書面ヲ要スルノ理ナキヲ以テナリ他ハ字句ノ修正ニ過キス

## 第四節 失踪

(理由) 既成法典ニ據レハ何人ニテモ生死ノ分明アラザルコト五年又ハ七年ニ至ルマデハ通常其者ヲ生存セシモノト看做シ單ニ其財産ヲ管理セシムルニ止メ五年又ハ七年ヲ經過スルトキハ始テ之ヲ死亡セシモノト同一視シ其死亡ニ因リテ權利ヲ得ヘキモノヲ保護スルト雖モ猶本幾分其失踪者ヲ保護スルノ規定ナキニ非ス今之ヲ從來ノ慣例ニ稽ヘ又之ヲ一般ノ法理ニ照ウスニ聊カ其當ヲ得サルモノアルカ如ク蓋シ失踪ノ宣告アルマデハ専ラ不在者ヲ保護スヘキハ論ヲ俟タズト雖モ一旦失踪ヲ宣告スル以上ハ全ク之ヲ死亡セシモノト看做シ敢テ利害關係人ヲシテ不確定ノ狀態ニ在ラシメサルコトヲ要ス唯此點定ラ下タズ以上ハ幾分其年限ヲ延長セリテ失踪者ヲ保護スルノ必要ヲ生ズヘシ但生死ノ分明ヲ以テ離婚ノ原因ト爲スルカ如キハ從來既ニ慣行セラル所ニシテ而モ其期限ニ至リテハ維新前ハ僅モ數月ノ後之ヲ許スノ慣例尠カラザリシカ如ク(民事慣例類集 八三頁以下)維新後ニ至リテモ滿二年ノ後又事情ニ因リテハ是ヨリモ早ク離婚ヲ許セルカ故ニ(法例彙纂初版四〇九頁以下)第二版一九〇四以下第三版一二七頁以下等)失踪ノ宣告前ニ之ヲ許スニ非サレハ頗ル舊慣ニ悖ルノ虞アルヘシ猶本此等ノ事ハ親族編ニ至リテ規定スヘキ所ナリ

## 第二十五條

(理由) 一、本條ノ規定アル所以ハ他ナシ不在者ノ財産ノ歸屬ハ其尸骸腐爛消失ノ虞アルヲ以テ之ヲシテ力メテ適當ノ管理ヲ得セシメント欲シタルナリ故ニ敢テ其本人ノ生死ノ分明ナルトハ分明ナラザルトニ論ナク裁判所ヲシテ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得セシメシハアルヘカラス是レ既成法典人



事編第二百七十一條ニ於テ失踪ノ推定ヲ受ケタル者ノ財産ニ付キ管理人ヲ指定セシムルト同時ニ其第二百八十八條ニ於テ未タ失踪ノ推定ヲ受ケサル者ノ財産ニ付キ必要ノ保存處分ヲ命セシムル所以ナリ而シテ之ヲ二條ニ概括シテ本文ノ如ク規定スルヲ以テ簡且明ナリト信シタルナリ

二、原文ニハ住所及ヒ居所、コリト、又ハ住所若クハ居所、去ルト云ヘリ然レトモ改正案ニ於テハ各人ノ生活ノ本據ヲ以テ住所トシタルカ故ニ從來ノ住所ヲ去リテ新ノ住所ヲ定メタルヤモ知ルヘカラス況ニ居所ニ至リテハ實際之ヲキコトハ稱ナルヲヤ是レ從來ノナキ文字ヲ加ヘタル所以ナリ

三、原文ニハ區裁判所トアリタルヲ單ニ裁判所ト改メタル所以ハ他ナレ裁判所ノ權限ハ或ハ之ヲ變更スルノ必要ヲ生スルコトアルヘキカ故ニ特別法又ハ民法施行條例中ニ其裁判所ノ種類ヲ定メ民法中ニハ之ヲ定メサルヲ可トシタルハナリ(七理由由ニ參照セヨ)

## 第二十六條

(理由) 一、既成法典人事編第二百七十一條ニハ代理人ノ失踪ノ推定中本人ノ財産ヲ管理ストアリタルモ代理人ノ權限ハ特ニ期限ヲ定メサルトキハ通常委任者又ハ代理人ノ死亡ニ至ルマデ繼續スヘキモノニシテ今失踪ノ推定ヲ受ケタル者ハ生死未タ判然セス而シテ死亡ノ因リテ權限消滅スルコト主張スル者ハ先ツ其死亡ヲ證明セサルヘカラス故ニ其死亡ノ判然スルマデハ代理人ノ權限繼續スヘキハ言フヲ待テ又特ニ期限ヲ定メサルトキハ其期限ノ到来ノ因リテ其權限消滅スヘキヲ勿論ナリ故ニ必スシモ失踪ノ推定中本人ノ財産ヲ管理ストトコトヲ得キ是レ右ノ十數字ヲ削除スル所以ナリ

二、原文ニハ現實ノ利益ヲ有スル關係人ノ推定繼續人トアリタルヲ單ニ利害關係人ト改メタルハ他ナレ利害關係人ト云ヘハ通常ノ現實ノ利益ヲ有スル者ヲ指シ而モ推定繼續人ノ如キハ現實ノ利益ヲ有セスト雖モ其中ニ包含セキヲ以テナリ

三、原文ニハ代理人ノ解任ノ手續又ハ其後任ヲ指定スルコトヲ得トアリタルヲ管理人ヲ改任スルコトヲ得ト改メタルハ原文ニ據レハ單ニ之ヲ解任スルノミニ後任者ヲ選定セサルコトヲ得ルモノノ如ク見エテ不可ナルト管理人ノ權限消滅シタルニ因リ其後任者ヲ選定スル場合ハ既ニ前條ニ之ヲ規定シタルト因リ

## 第二十七條

(理由) 一、既成法典人事編第二百七十三條ニハ動産及ヒ證書、目録ヲ調査シ可シ又不動産ノ形狀ヲ確定セシムル爲メ鑑定人ノ選定ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得鑑定人ノ報告書ハ裁判所ノ認可ニ付スルコトヲ要スト云ヘリ然レトモ是等ハ皆手續ニ屬スル規定ニシテ現ニ明治二十三年十月三日法律第九十五號非訟事件手續法第四十二條ニ類似ノ規定アル唯既成法典ニハ不動産ニ付テ鑑定人ヲ選定スヘキコトヲ言ヒ非訟事件手續法ニハ之ヲ言ハサルノ差アルモ然リト雖モ何カ故ニ不動産ニハ鑑定ヲ要セ動産ニハ之ヲ要セサルヤ願ヒ了解ニ苦シム所ナリ又何カ故ニ他ノ場合ニ於テハ之ヲ要セサルニ此場合ニ於テノミ鑑定ヲ要スルヤ是亦其理由ヲ發見スルコト能ハサルナリ因テ改正案ハ單ニ財產ノ目錄ヲ調査スヘシト爲レヨリ

二第三項ノ附加シタル所以ハ他ノシ管理人ハ金錢ヲ受取リタルトシ其適當ノ處分ヲ命レ其他臨時計算書ヲ提出セシムル等財産ノ保存ニ付キ終始裁判所ニ於テ監督指揮ヲ爲スニ非ザレハ管理人ハ罰モスレハ奸曲又ハ怠慢ノ所爲ナキヲ保セス然リト雖モ範圍ニ於ケルカ如ク其命スヘキ處分ヲ列舉スルトキハ簡ニ失シテ一切ノ必要處分ヲ包含セサルニ非ザレハ必ス煩冗無難ニ涉ルル虞アリ而モ獨逸瑞等ノ諸國ニ於ケルカ如ク或ハ不在者ノ後見ニ付シ或ハ之ノ後見ヲ規則ヲ適用スルハ聊カ鄭重ニ失スルカ如ク是レ本文第三項ヲ以テ包括的ノ規定ヲ設ケ裁判所ヲ以テ時宜ニ從ヒ最モ適當ノ處分ヲ施スコトヲ得セシメシト欲シタル所以ナリ

## 第二十八條

(理由) 既成法典人事編第二百七十二條第二項ノ規定ヲ削除シタルハ他ノレ其規定中ノ掲ゲタル行為(理由) 既成法典人事編第二百七十二條第二項ノ規定ヲ削除シタルハ他ノレ其規定中ノ掲ゲタル行為ハ當然管理行為中ニ包含セラルルモノト信シタルヲ以テナレバ但モ本案ニ於テハ管理行為ノ文字ヲ用ヒシレバ後ノ第百三條ニ定メタル權限トセリ

改正案ニハ既成法典人事編第二百七十一條ニ於ケルカ如ク必ス裁判所ニ於テ管理人ヲ選定スヘキコトヲ言ハス突然管理人ノ權限ヲ規定スルハ或ハ其當ヲ得サルカヲ疑フ者アラシ然レトモ財産ノ管理ニ付キ必要ナル處分(二五)ト云ヘハ通常管理人ヲ選定スルヲ以テ第一著ト爲スハ論ヲ俟タヌ又舊ニハ別ニ管理人ヲ選定スル必要ナキコトモアラン故ニ必スレモ管理人ヲ選定スヘキコトヲ言ハス裁判所ヲ以テ便宜ノ處置ヲ爲サシメント欲シタルナリ殊ニ原文ニハ成ル可ク推定相續人ヲ以テ管理人ト

スヘキコトヲ言ヘルモ失察ノ宣言アルマデハ不在者ヲ以テ未タ死亡セサル者ト看做ササルヘカヲサレカ故ニ必スレモ推定相續人ヲ以テ財産ヲ管理セシムルコトヲ要セス最モ適任ノ人ヲ選ビテ之ヲ管理セシムヘキノミ法典編纂者モ敢テ之ヲ權ヲサルニ非サルカ成ルヘタナル部ヲ用井多リ然リト雖モ法文ニハ右様ノ隱昧ナル文字ハ力マテ之ヲ避テヘキカ故ニ寧ろ其全文ヲ削除スルノ急ニシルニ如カスト信シタルナリ

既成法典人事編第二百七十五條ハ之ヲ削除セリ其理由ハ同條ニ規定セル事項ハ皆管理行為外ノ行為ニシテ本文第一項但書ノ場合ニ該當ス然レニ此場合ニ於テハ必ス裁判所ノ許可ヲ要スルモノトセシルカ故ニ別ニ此ノ如キ法文ヲ要セサルナリ

## 第二十九條

(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百七十四條ニ定ムル修正ヲ加ヘタルモノナリ其要點左ノ如シ  
一原文ニハ擔保トシテ保證人其他相當ノ擔保ヲ立デレムルコトヲ得トアリタルモ擔保ノ種類ハ一ニ裁判官ノ專斷ニ委スルカ又ハ民事訴訟法其他ノ手續法中ニ規定スヘキモノナリト信スルヲ以テ單ニ擔保ト改メタリ

二原文ニハ管理人ハ推定相續人ヲ除キ外其請求ニ因リテ裁判所ノ定メタル給料ヲ受テトアリタルモ既ニ推定相續人中ヨリ管理人ヲ選フノ主義ヲ改メタル以上特ニ推定相續人ニ就テ言フハ其當ヲ得サルノモノナラス假令推定相續人ナラザルモ子カ父ノ財産ヲ管理シ父カ子ノ財産ヲ管理シルカ如キ



ハ別ニ給料ヲ與フルノ必要ナキカ如シ是レ裁判官ヲシテ十分事情ヲ斟酌シテ給料ヲ與フルト否トヲ定ムルコトヲ得セシメント欲レタル所以ナリ

### 第三十條

(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百七十六條舊重要ノル修正附加タルモノナリ其要點左如シ

一 原文ニハ不在者カ代理人ヲ定メ置キタルト之ヲ定メ置キザリト因リ年限ニ達等ヲ設ケルト雖モ代理人ヲ定メ置クト之ヲ定メ置カサルトハ多クハ偶然ノ事實ニシテ忽チ死亡スヘキトキハ代理人ヲ定メ置カス長ク生存スヘキトキハ代理人ヲ定メ置クモノト斷定シ難キカ如シ故ニ此等ヲ廢シ

ナリ

二 原文ニハ右ノ區別ニ依リ五年又ハ七年ノ後失踪ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得ルモノトセリ然リト雖モ既ニ箇首ニ達ヘタルカ如ク失踪ノ宣告ヲ以テ死亡ニ等シキ效力ヲ生スヘキモノトスル以上ハ遠ク海外ニ旅行スル者多キ今日ニ在リテハ五年乃至七年ハ通常ノ場合ニ於テハ聊カ短期ノ失スルノ虞ナキニ非ス故ニ二十年ト改メナリ

三 然レトモ右ノ通常ノ場合ニ就テ論レタルモノニシテ本文第二項ノ場合ニ於テハ殊ニ死亡ヲ推定スルノ理由アルヲ以テ五年・七年猶ホ且ツ其長キヲ覺ニ故ニ之ヲ二年ニ短縮シナリ

四 原文ニハ失踪者ノ死亡・因リテ發生スル權利・其財產上ノ有スル者ノ限リ失踪ノ宣告ヲ請求ス

ルコトヲ得ルモノトセリ然リト雖モ管理人・債權者等モ失踪ノ宣告ニ付テ正當ノ利益ヲ有スルコトアルヲ以テ此等ノ者モ亦失踪ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得セシムルヲ至當トス是レ汎汎ノ利害關係ノト改メタル所以ナリ

五 原文ニハ失踪者ノ住所ノ區裁所ニ請求スヘキコトヲ規定スルト雖モ既ニ屬地ニ屬シタルカ如ク

(七理由) 三・五理由ニ此等ノ手續ニ屬スル事ハ民法中ニ掲ケサルヲ可トスルヲ以テ之ヲ省キ

六 人事編第二百七十七條乃至第二百七十九條ノ削除シタル理由ハ是レ舊手續ニ關スル規定ニシテ多クハ明治二十三年十月三日法律第九十五號非訟事件手續法第四條乃至第九條ノ規定ニ相重複セルヲ以テナリ蓋シ右ノ法律ニ未ダ足ラサル所ノモノアラハ之ヲ補ヒテ可ナリ何ゾ之ヲ民法中ニ規定スルコトヲ要セシヤ

### 第三十一條

(理由) 一 既成法典ニ據レハ失踪ノ宣告ハ未ダ失踪者ヲ死亡シタル者ト看做サレタルノ效力ヲ生セ

サルモノトセリ是レ舊伊國死亡ノ推定ニ關シテ用ニ關スル文字ヲ用ニルト雖モ其效力ニ至

リテハ毫モ我カ法典ノ規定ニ異ナルコトナシ民法・白國民法草案等ノ主義トスル所ニ依リナリ然

リト雖モ一面ハ生者ノ如ク一面ハ死者ノ如キ中間ノ位置ニ在ル者ハ其權利係メテ不確定ニシテ延テ

他人ノ權利ニマデ其不確定ノ結果ヲ及ボスニ至ラズ故ニ觀澳・瑞西等ノ諸國ニ倣ヒ失踪者ハ反對ノ

證據出フルマテハ死者ト看做スヲ可トシタルナリ(此ニ援引セル國々ノ法律ニ於テモ或ハ單ニ相續ニ付テノミ失蹤者ヲ死者ト觀ルモノナキニ非ス、雖モ是亦事理ニ合ハス且實際ニ便ナラサルヲ以テ今之ヲ取ウス)

二 既成法典ニ據レハ人ノ生死ニ付テハ必ス確證ヲ要スルノ主義ヲ執リ失蹤者ハ幾分々死者ニ近キ取扱ヲ受クルト雖モ失蹤ノ宣告前ノ不在者ヲ以テ生者ト看做スル某ノ時ニ生存スル者ノ限り某ノ權利ヲ有スヘキ場合ニ於テハ寧ロ之ヲ死者ノ如ク取扱フヘキモノトセリ斯クハ如ク失蹤ノ宣告前既ニ不在者ノ權利ヲ認メス失蹤ノ宣告後猶ほ他ノ利害關係人ノ權利ヲ認メス初メニハ死セラルカ如ク後ニハ却テ生ラルカ如ク初メニハ他ノ利害關係人ノ權利ヲ認メテ後ニハ却テ之ヲ認メサルハ甚事理ニ合ハス今之ヲ改メテ失蹤ノ年限マデハ不在者ヲ生者ト看做シ其後ハ之ヲ死者ト看做シ以テ權利ノ所在ヲ明カニシメリ

三 既成法典ニハ一タヒ失蹤ノ宣告アルトキハ失蹤者ハ、亡失又ハ最後音信ハ、日ニ於ケル想定相續人其他失蹤者ノ死亡ニ因リテ發生スル權利ヲ其財產上ニ有スル者ハ、直チニ其財產ヲ占有スルコトヲ得ルモノトセリハノ二項ニ是レ蓋シ佛伊等ノ國ニ於テ失蹤ノ宣告カ直チニ右ノ效力ヲ生ズルニ非スト雖モ今頃ヲ忍レテ敢テ説カニ關等ノ法律及ヒ國民民法草案ニ規定ニ倣ルナリ然リト雖モ亡失ノ日又ハ最後音信ノ日ニ其者カ死亡セリト推測スヘキ場合ハ極メテ稀ナルヘシ然ラズシハ何ヲ以テ亡失後又ハ最後音信後數年ヲ待テテ始メテ其失蹤ノ宣告セシムルカ恰モ亡失後又ハ最後音信後數

年ヲ經テ歸來シ又ハ其生存セル證據分明トナルコト多キ故ニ數年ヲ待テテ始メテ其失蹤ヲ宣告セシムルニ非スヤ然ラハ則チ何レノ時ヲ以テ死亡シタルモノト看做スヘキカ此點ニ關レバ右ノ佛法ノ主義ノ外漢西國民法ニハ明カニ某ノ日ヲ以テ死亡ノ日ト看做スト曰ハス唯死亡ノ推定ノ判決確定スルトキハ相續開始スヘキコトヲ言ヘルニ四リ少ク相續ニ付デハ右ノ判決確定ノ日ヲ以テ死亡ノ日ト看做シタルモノト謂ハサルヲ得ヌ又西國民法ニ於ケルカ如ク如ク失蹤ノ宣告ハ未ダ右ノ效力ヲ生ゼサルモノトシ其後賈ニ死亡ノ推定 De presumption de mortis ノヲ宣告セシムルナリ(ドイツ、フランス、普魯西、巴威爾其他數多ノ獨逸聯邦邦、Niederrhein, Rheinische, Garbarden, etc. Deutsche Reich) 一の法律及ヒ獨逸民法ノ讀會草案(二)ノ如ク失蹤宣告ノ日又ハ其宣告カ確定シタル日ニ死亡シタルモノト看做スアリ又其後(フュルリヒニ)於テハ生死不分明ナルコト十五年間ハ仍ホ生者ト看做シ其後十五年間ハ生死全ク不明ナル者ト看做シ其後二至リテ始メテ死者ト看做スナリ)ノ民法及ヒ獨逸民法ノ讀會草案、如ク法律ニ定メタル期間滿リノ日ニ死亡シタルモノト看做スアリ尙ホ右ノ外公示僅告期間滿リノ日ヲ以テ死亡ノ日ト看做スノ國アリト雖モ其條所據メテ獨逸アルヲ變ニムルカ故ニ之ヲ略ス Motive zum bürgerlichen Gesetzbuch für das Deutsche Reich, I, 6, 10) 而シテ此後者最モ正確ヲ得タルニ似タリ蓋シ裁判所ニ於テ失蹤ノ宣告スルニ當リ苟モ生死不明ナルコト十年(國々年數ハ同シカラス又改正案ニ於テモ場合ニ因リ十年ナラサルコトアリ)ニ達スルノ事實アレハ必ス之ヲ宣告セサルコトヲ得サルナリ故ニ失蹤者ヲ以テ



死者ト視ルハ其宣告アルニ因ルト曰フト雖モ其宣告ハ單ニ法律ニ定メタル事實アルニ因レリト謂ヘサルコトヲ得ス是ニ由リテ之ヲ觀レハ其法律ニ定メタル事實ノ生セシ時ヲ以テ死亡ト時ト見ルハ理ノ當然ナルカ如シ殊ニ失踪ノ宣告アルモノハ利害關係人ノ述ニ之ヲ請求スルト否ト又法官ノ其宣告ヲ意ルテ否トニ因リ其日ヲ同レウセス爲メニ相續其他ノ權利ヲ得ル者ヲ異ニスルカ如キコトアラハ豈ニ之ヲ不公平ト謂ハサルヘケンヤ況ヤ投擲アル利害關係人ハ失踪ノ宣告カ已ニ不利益ナル間ハ力メテ其事實ヲ隱蔽レ已ニ利益アルニ至ルトモハ速カニ之ヲ請求セ又他人カ之ヲ請求スルニ力リ若シ己ニ不利益ナルトキハ虚偽ノ事證ヲ作為シテ一時其宣告ヲ延引セシメ己ニ利益アルヲ待テ之ヲ宣告セシムルカ如キ詐欺ヲ行フコトナキヲ保セサルヲヤ或ハ日ヲ失踪ノ宣告ノ效力ニ法律ニ定メタル期間満了ノ時ニ過ルトキハ其當時何人カ相續人タルヘキ權利ヲ有セシカ又失踪者ノ終身間享有スヘキ權利ニ付テハ幾年間不當ニ之ヲ享有セシカ等種々煩雜ナル問題ヲ惹起スヘシ而テ事既ニ數年乃至十數年ノ前ニ係ルキハ之ヲ調査スルコト極メテ難カルヘシト然リテ雖モ此不便宜以テ前便益ニ比スレハ利害相値セテ猶ホ餘リアルカ如シ

## 第三十二條

(理由) 一、既成法典ニハ失踪ノ宣告ヲ以テ生死ノ分界ヲ示スモノトセザルカ故ニ失踪者カ後日ニ至リ現出シタル場合ニ付テハ細ニ規定スル所アリト雖モ失踪者ノ死亡シタル時ニ付キ專斷ナル普信ヲ得タル場合ニ關シテハ毫モ直接ニ規定スル所ナシ今失踪ノ宣告ニ由リテ似ニ死亡ト時ヲ定ムルカ故

ニ若シ失踪者リ之ト異ナリタル時ニ死亡シタル確證ヲ得ルトハ其事實ノ如何ナル效力ヲ失踪者ノ親族上又ハ財産上ノ關係ニ及ボスカヲ規定セサルヘカラス

二、既成法典ニ於テハ失踪者カ後日ニ至リ現出シタル場合ニ付キ其現出ノ事實ヲモ因リ失踪ノ宣告ハ其效力ヲ失フヘキモノトセリト雖モ是レ聯カ不確實タルヲ免レルヲ以テ本案ニ於テハ特ニ裁判所ノ取消ヲ必要トセリ且既成法典ハ單ニ財産ニ付テノ規定ニ毫モ親族上ノ關係ニ付テ規定スル所ナレ故ニ人事編第二百八十二條第一項ニ因リ失踪ノ基ケル離婚モ失踪者カ後日現出シタル時ニ其效力ヲ失ヒ其婦人ハ更ニ失踪者ノ妻タル資格ヲ回復シ若シ離婚後既ニ他人ト再婚シタル場合ニ於テハ其再婚モ亦自ラ無効ニ歸スヘキカ如シ是レ頗ル妥當ヲ缺クヲ譴ヲ免レシ故ニ本案ニ於テハ一切ノ行為ニ付テ失踪ノ取消其效力ヲ既在ニ及ボササルヲ原則トシタリ

三、既成法典ニ據レハ失踪者後日ニ至リ現出シタルトキハ失踪ノ宣告ニ依リ財産ヲ占有スル者ハ現在ノ儘ニ其財産ノ元本ヲ返還シ猶ホ既ニ處分シタル財産ニ付テハ單ニ之ニ由リテ不當ニ取りタル利得ノミヲ返還スヘキモ(八二二)項其果實ニ付テハ生死不分明ナルコト十年ニ及ブマデハ必ス其五分一ヲ失踪者ニ返還セサルヘカラス(八二八)三是レ聯カ權衡ヲ得サルモノアルカ如シ故ニ寧ロ元本ト果實トヲ分メス凡ソ占有者カ現ニ利得スル所ノモノハ之ヲ返還スヘキ其他ハ一切之ヲ返還スルコトヲ要セスト改メタリ蓋シ占有者ハ裁判所ニ於テ不在者ノ失踪ノ宣告シタルニ因リ失踪者ヲ以テ死者ナリト信シ其財産ヲ正當ニ獲リト思惟シ總テ其所有者タルヲ考慮ヲ以テタル處分セシ

モノト看做ササルコトヲ得ス是レ既成法典ニ於テモ現在ノ儘ニ財産ヲ返還シ其既ニ處分シタルモノニ付テハ之ニ由リテ利得シタルモノノミヲ返還スルヲ以テ足レリトセル所以ナリ若レ然ラハ敢テ元本ト果實トヲ分ツノ理アラサルナリ

四 既成法典人事編第二百八十四條及第二百八十七條 場合ニ於テハ三十年間又ハ普通ニ時効ノ成就ルマデハ果實ニ關シ第二百八十四條第二項ノ規定アルノ外毫モ占有者ヲ保護セズ然リト雖モ一旦失踪ノ宣告ヲ以テ失踪者ノ死亡ノ時ヲ假定スル以上ハ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル人ニ對シテモ其失踪ノ宣告ニ因リテ財産ヲ得タル者ヲ保護スルニ非ズルハ失踪ノ宣告ハ却テ其者ヲシテ不慮ノ損害ヲ被ムラシムルノ惡アラン是レ本案ニ於テハ汎ク占有者ヲ保護スル所以ナリ

五人 事編第二百八十四條ニハ財産ノ占有ヲ得タル日ヨリ二十年間ハ眞ノ相續人ニ財産ヲ返還スヘキモノトセリ然リト雖モ裁判所ニ於テ失踪ノ宣告アリタルカ爲メ失踪者ハ某ノ時ニ死亡シタルト信シ正當ニ相續ヲ得タル者ハ必ス善意且正權原ノ占有者トサルハカラス若レ然ラハ既成法典ニ據リハ十五年ニシテ時効ヲ得ヘキノナリ(證一四〇・一項一四九・三項若レ又右ノ條件ヲ具備セストスレハ人事編ノ明文ナキモ三十年ヲ以テ時効ヲ得ヘキノ(證一四〇・二項故ニ此等ハ二時効ニ關スル規定ニ讓リ茲ニ定メサルヲ以テ可トス

## 第二章 法人

(理由、本章ニ於テハ法律ノ規定ニ依リテ人格ヲ享テヘキ者ニ關スル規程ヲ掲ク既成法典ハ人事編第五條ニ於テ只法人ノ成立ハ法律ノ認許ニ依リ其私權ノ享有ハ法律ノ規定ニ從フヘキノ原則ヲ示スニ止マリ取テ其成立ノ認許及私權ノ享有ニ關スル規定ヲ掲ケス蓋シ主トシテ之ヲ商法及特別法ニ讓リタルモノナリ佛國民法ニ於テハ法人ナルモノノ存在ヲ明記セシメ且間接ニ之ヲ認メルニ止マリ(佛五三七乃至五四二・六一九九・一〇九三七・一七二二・四四二・二二二・二二七)其他ハ特別法令ノ定ムル所ニ依リ佛國民法ニ倣ヒタル諸國ノ法典ハ概シテ同一ノ體裁ヲ採用シシカ晚近公共心ノ發達及經濟上ノ進歩ニ因リ法人設立ノ必要大ニ増加シ從テ諸國ノ立法ハ特ニ法人ニ關スル通則ヲ擬定シテ之ヲ民法中ニ掲グルノ主義ヲ採ルニ至レリ現ニ伊國民法ハ佛國民法ニ倣ヒタルニモ拘ハラズ其第二條ニ於テ法人ノ存在ヲ明記シ白國民法草案ハ特ニ之カ爲メ第二章ヲ置ク(白草五一乃至五五五)其他西班牙・瑞西諸聯邦・獨逸諸聯邦ノ民法・北米紐育州及獨逸帝國民法草案等ニ於テモ皆法人ニ關スル規定ノ爲メ第二章ヲ設ケタル本案ニ於テハ法人ハ自然人ト相竝ヒテ私權ノ主体タルヲ以テ民法總則中ニ之カ規程ヲ掲グルノ必要ヲ認メ茲ニ其設立・管理・解散及私權ノ享有・行使ニ關スル通則ヲ舉ケ之ニ關スル細則及特別ノ法人ニ關スル規則ノ如キハ之ヲ特別法令ノ規定ニ讓リタリ

法人ニシテ自然人ノ集合體ヨリ成ルモノアリ無主權體ノ集合體ヨリ成ルモノアリ前者ヲ社團法人ト